

台風第26号に対する国土地理院の対応 Correspondence of the Geospatial Information Authority of Japan to Typhoon Wipha(1326)

企画部 防災推進室 Planning Department Disaster Management Office

要旨

国土地理院は、大規模自然災害発生時において救助活動及び復興に寄与するため、関係機関へ地理空間情報の提供を行っており、台風第26号での災害についても、国土交通本省（以下、「本省」という。）を始めとする関係行政機関からの要請に応じた地理空間情報の提供を実施した。本稿では、初動時の活動を中心に上記の取り組みについて報告する。

1. 台風26号の概要

10月11日にマリアナ諸島付近で発生した台風第26号は、発達しながら日本の南海上を北上し、大型で強い勢力のまま、16日明け方に暴風域を伴って関東沿岸に接近した（図-1）。東京都大島での14日から16日までの総雨量は、824ミリとなり、大規模な土砂災害（写真-1）が発生し、30名を超える死者・行方不明者を出す結果となった。

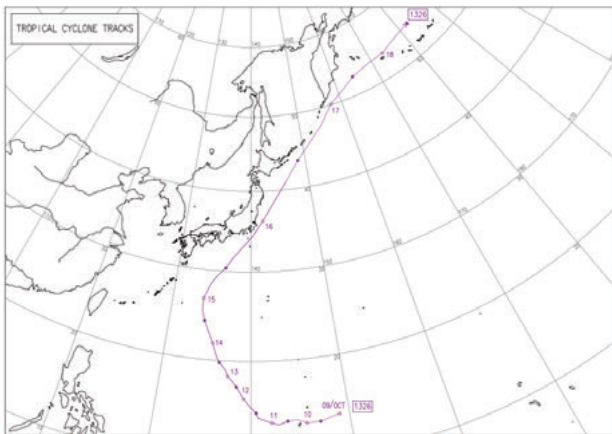


図-1 台風第26号の進路図（気象庁HPより）



写真-1 台風第26号による土砂災害（元町地区）

2. 国土地理院の対応

2.1 全体の対応

この土砂災害に対し、航空機「くにかぜⅢ」による撮影を決定し、被災状況の把握に努め、16日には斜め写真（写真-2）を撮影するとともに、土砂流出範囲を判読し同日中にホームページで公開するに至った。



写真-2 10月16日撮影の斜め写真（元町地区）

この斜め写真と土砂流出範囲は、いち早く現地の被災状況を把握するための資料として多くの機関に利用された。

翌17日には「くにかぜⅢ」により本省等の関係機関からの要請に応じ、空中写真（垂直写真）を撮影し、情報の収集に努めた。

撮影した空中写真等は、大島町を始めとする東京都や関係機関に提供するとともに、ホームページ上で公開し現地における被災箇所把握に利用された。

2.2 各部の対応

本災害時における各部の主な対応は以下のとおりとなる。

- 1) 基本図情報部
くにかぜⅢによる空中写真の撮影及び提供する画像データの作成
- 2) 応用地理部
被災箇所の抽出と被災データの作成
- 3) 地理空間情報部
作成したデータのホームページ上での提供
- 4) 関東地方測量部
災害対策図等の提供

なお、詳細な対応を次頁以降で各部から報告する。

3. まとめ

国土地理院は、災害対策基本法の指定行政機関としての責務を果たすべく、今回の風水害はもとより今後発生が予想される東海地震やそれと連動して起こると想定される東南海・南海地震をはじめ、火山動に対して万全な体制を備える所存である。

最後に本災害において被災された皆様方に心からお見舞い申し上げます。

(公開日：平成26年3月3日)